登錄通知
~~領收~~證

願書番號	昭和 7 年特許願第 5576 號
出願公告年月日	昭和 9 年 9 月 19 日
納付者	陸軍大臣
代理人	
領收年月日	
領收金額	金三十圓也 第一年乃至第三年分 特許料
登錄年月日	昭和10年 1月8日
特許番號	第 109078 號

注意
○第四年分以後ノ特許料ハ出願公告アリタルモノニ付テハ出願公告ノ日、出願公告ナキモノニ付テハ登錄ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
○特許證ハ追テ交付ス

三六九

四

九

保存期限	決裁指定	決行指定	
永久	永久	永久	牛島

受領番號	件名
九	九年參第一一〇號四 特許證送付ノ件

主務局課	番號	受領	提出	大臣官房	受領	結了
	九年三四三	昭和十年一月三十一日	昭和		昭和 年	昭和 年
			昭和十年青十日		三月十五日	三月十九日

大臣 委

政務次官 | 次官 委 | 參與官 | 書記官 | 審案筆記者

主務局長 | 高級副官 牛島 | 主務課長 | 主務副官 | 官房御用掛主任 | 主務課員

決裁後連帶課名 永久 申 特許

決行(決裁)後回覽課名

政務次官參與官回付

起元廳(課)名

陸軍科學研究所

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

陸軍

陸普

副官ヨリ陸軍科學研究所長ヘ通牒（技術本部経由）

客年二月一日付陸科研甲第五五号ニ依ル左記出願特許関係別紙寫ノ通特許證送付ス

左記

殺蟲劑「シアンカルシウム」製造法

陸普第一三五一號　昭和十年三月十六日

特許第一〇九一九三號

特許證

陸軍大臣

發明者　東京市　青山虎彦　横濱市　間壁一男

發明ノ名稱　殺虫劑「シアンカルシウム」ノ製造法

出願公告　昭和九年十月十五日

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

昭和十年一月十六日　特許局長官　中松眞卿　印

登録通知
~~領収証~~

願書番號	昭和 9 年特許願第 1491 號
出願公告年月日	昭和 9 年 10 月 15 日
納付者	陸軍大臣
代理人	
領収年月日	
領収金額	金三十圓也 第一年乃至第三年分 特許料
登録年月日	昭和10年 1月16日
特許番號	第 109193 號

注意
○第四年分以後ノ特許料ハ出願公告アリタルモノニ付テハ出願公告ノ日、出願公告ナキモノニ付テハ登録ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
○特許證ハ追テ交付ス

昭和十年一月八日

特許査定謄本

昭和九年特許願第一四九一號

發明ノ名稱　殺虫劑ノ製造法

出願人　陸軍大臣

代理人

出願公告昭和九年十月十九日

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

本願ニ付テハ拒絕ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ發明ハ之ヲ特許スヘキモノトス

昭和九年十一月二十六日　特許局審査官　小山甲三　㊞

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和十年一月八日　特許局屬　高橋米太郎

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

注意

一　特許料ハ別紙納付書用紙ニ納付ズヘキ特許料ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シテ特許局ニ之ヲ差出スヘシ
（收入印紙ニハ消印ヲ爲スヘカラス）

二　特許料左ノ如シ

(イ)	第一年乃至第三年	毎年	十圓
(ロ)	第四年及第五年	毎年	十五圓
(ハ)	第六年乃至第九年	毎年	二十五圓
(ニ)	第十年乃至第十二年	毎年	三十五圓
(ホ)	第十三年乃至第十五年	毎年	五十圓

三　第一年乃至第三年ノ特許料（三十圓）ハ別紙記載ノ期間内ニ一時ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス
前記特許料ヲ前項ノ納付期間内ニ納付スルコト能ハサルトキハ其ノ期間内ニ事由ヲ具シテ期間ノ延長ノ請求ヲ爲スコトヲ得（請求書ニハ一圓ニ相當スル收入印紙ヲ貼附スルコトヲ要ス）此ノ場合ニ於テハ三十日以内ヲ限リ延長ヲ許可スルコトアルヘシ
第四年以後ノ特許料ハ各其ノ前年ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス
第四年以後ノ特許料ノ納付期間ハ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

四　利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

保存期限 永久
決裁指定
決行指定

受領番號	件名
参第一一〇號	出願公告決定謄本送付ノ件

大臣 参

主務局課	番號	受領	提出	受領	了結
	三四三	昭和九年二月七日	昭和九年十一月十日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

大臣官房	連帶	決行(裁決)後回覧
局長	局長	局長
課長	課長	課長

政務次官 参與官 回付 決裁 前後

連帶課名

決行(決裁)後回覧課名

起元廳(課)名

政務次官

参與官

書記官

審案筆記者

主務局長

主務課長

主務副官

官房御用掛主計

高級副官

次官

主務課員

陸軍科學研究所

陸普

副官ヨリ陸軍科學研究所長ヘ通牒

二月一日附陸科研甲第五五號ニ依ル左記出願特許ニ關シ別紙寫ノ通出願公告ノ決定謄本送付ス

記

陸普第六一一四號　昭和九年拾月拾壹日

殺蟲劑（シアンカルシウム）ノ製造法

昭和九年特許願第一四九一號

出願公告ノ決定謄本

發明ノ名稱　殺虫劑「シアンカルシウム」ノ制法

出願人　陸軍大臣

代理人

本願ハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定ス

昭和九年九月二十八日

特許局審査官　小山甲三

右謄本ハ原本ト相違ナキコト認證ス

昭和拾九年拾壹月壹日

特許局屬　高橋米太郎

参考資料 二〇 二

願書番號通知

昭和九年特許願第 1491 號

昭和九年 月 日差出ニ係ル特許願ニ附シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス

追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ必ス之ニ前記願書番號(昭和 年特許願第 號)及發明ノ名稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用スヘシ

昭和九年 月 日

昭和九年 月 日

特許局

陸軍省
9.2.24
第43號
銃砲課

陸軍

越ノ通特許願及明細書(謄)
臣稟印ノ上讓渡證ト共ニ
ヘ送達セラレ度
昭和九年二月十五日
陸軍二等主計 銃砲課
御中

陸軍技術本部經由

陸科研甲第五五號

特許出願ノ件上申

昭和九年二月一日　陸軍科學研究所長　久村種樹

陸軍大臣　林　銑十郎　殿

左記品目ニ對シ別紙譲渡證貳通特許願竝明細書各四通添付進達シニ付特許出願セラレ度

一、發明ノ名稱　殺蟲劑「シアンカルシウム」ノ製造法

一、發明者　東京市淀橋區柏木四丁目九百貳拾七番地　青山虎彦

神奈川縣横濱市中區西戸部町字古井戸壹千六百四拾六番地　間壁一男

陸軍省受領　陸軍技術本部經由

陸軍省　9.2.7　第13　銃砲課

本文申越ノ通特許願及明細書(二通)ニ大臣稟印ノ上譲渡證ト共ニ特許局ヘ送達セラレ度

昭和九年二月十五日

陸軍省第九部二課長　銃砲課

官房御中

陸普第八一九號　昭和九年二月十五日

官房控

特許願

一、發明ノ名稱　殺虫劑「シアンカルシウム」ノ製造法

一、發明者　東京市淀橋區柏木四丁目九百貳拾七番地　青山虎彦

神奈川縣横濱市中區西戸部町字古井戸壹千六百四拾六番地　間壁一男

右出願ニ關シ別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度候也

昭和九年　月　日

東京市麴町區永田町壹丁目壹番地

陸軍大臣　林銑十郎

特許局長官　中松眞卿　殿

添付書類目錄

一、明細書　　　貳通

一、讓渡證　　　壹通

譲渡證

一、發明ノ名稱　殺虫劑「シアンカルシウム」ノ製造法

右私等ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ譲渡候也

昭和九年一月二十九日

東京市荻窪區柏木四丁目九百貳拾七番地　青山虎彦

神奈川縣横濱市中區西戸部町字古井戸壱千六百四拾六番地

陸軍大臣　林銑十郎殿

閲覧　一　男

明

細

書

明細書

發明ノ名稱

殺虫剤「シアンカルシウム」ノ製造法

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ青酸ト混合シ又ハ混合セサル有機溶剤ノ存在ニ於テ炭化「カルシウム」又ハ炭化「カルシウム」ト酸化「カルシウム」、水酸化「カルシウム」、炭酸「カルシウム」等ノ「カルシウム」化合物ノ何レカ一種又ハ数種トノ混合物ト液体青酸トヲ反應セシムルコトヲ特徴トスル殺虫剤「シアンカルシウム」ノ製造法ニ係リ其目的トスル所ハ有機溶剤ノ使用ニ依リ反應ニ必要ナル青酸ヲ完全ニ「カルシウム」ト接触反應セシムルコト並ニ上記反應終了ト同時ニ残留ス

ル水分ヲ全部水酸化「カルシウム」ニ変化セシムルコトニ依リ製品ノ分解重合ヲ防止シ有效青酸量ノ大ナル粉末又ハ固形体ノ殺虫剤「シアンカルシウム」ヲ簡易安全安價ニ製造スルニ在リ

発明ノ詳細ナル説明

従来知ラル「シアンカルシウム」ノ製造法ニハ石灰窒素ヨリ製造スル法、水酸化「カルシウム」又ハ酸化「カルシウム」ト青酸トヨリ製造スル法、炭化「カルシウム」ト青酸トヨリ製造スル法等種々アリ而シテ此等ノ中炭化「カルシウム」ト青酸トヨリ製造スル方法ハ他ノモノニ比シ比較的純度高キモノヲ得ラル

然レ共従来ノ方法ニ依レハ炭化「カルシウム」ニ對シ少ク

モ四乃至五倍重量ノ青酸ヲ使用スルニ非サレハ十分ニ反應セシメ得サルノミナラス過剰ノ青酸ヲ使用スルコトニヨリ含有セル水分ハ最後ニ製品中ニ殘留シ製品ノ重合分解ヲ起シ又過剰ノ青酸ヲ加温ニ依リ驅逐スル為一層製品ニ悪影響ヲ及ホスノミナラス青酸ノ損失並ニ青酸ノ驅逐ニ要スル手数ト危険ヲ伴フ缺点アリ

然ルニ本發明ニ於テハ此等ノ缺点ヲ全ク除去シ青酸ヲ過剰ニ使用スル必要ナク計算量即炭化「カルシウム」一「モ」ルニ對シ青酸四「モ」ル使用スルノミニテ純度良好ナル製品ヲ合理的ニ且又簡易安全安價ニ製造シ得ル特長ヲ有ス即本發明ニ於テハ青酸ト反應セサル有機溶剤例ヘハ二硫化炭素四塩化炭素等ノ存在ニ於テ炭化「カルシウム」ニ

ト九五乃至九九%ノ液体青酸トヲ反應セシムル時ハ通常炭化「カルシウム」一「モル」ト青酸四「モル」ノ割合ニテ結合シ青酸ハ完全ニ炭化「カルシウム」ト反應スヘシ而シテ反應間接触的ニ作用シアリシ水分ハ青酸ノ反應完結ト同時ニ豫メ水分ニ對スル計算量タケ過剰ニ存在セシメアル炭化「カルシウム」ト反應シテ水酸化「カルシウム」トナル

從テ分解重合等ヲ促進スル水分ヲ残存セシメサルヲ以テ純度高キ製品ヲ得ラル

斯ノ如ク製品ニ悪影響ヲ及ホス残留水分ノ除去ヲ極メテ簡易ニ實施スルコトハ從来ノ方法ニ於テハ全ク實施不可能ナリ

斯クシテ製造セラレタル「シアンカルシウム」及有機溶剤

ノ混合物ハ之ヲ遠心分離機又ハ吸引濾過機ニ依リテ容易ニ分離スルヲ得ヘシ　而シテ此等ノ操作ハ常温ニ於テ実施シ得ルルヲ以テ従来ノ方法ノ如ク加温ニ依ル製品ノ重合分解等ノ缺点ナク殊ニ過剰ノ青酸ヲ含有セサルヲ以テ取扱上ノ危険尠ク安全簡易ニ實施セラレ得ヘシ　之ヲ要スルニ本発明ノ方法ニ依レハ合理的ニ反應ヲ完結セシメ得ルノミナラス實施ノ方法簡易ニシテ又取扱安全ナル利点ヲ有ス

本発明ニ於テ使用シ得ル有機溶剤ハ青酸ト反應セサル限リ青酸ト混合スルモノ又ハ青酸ト混合セサルモノ何レニテモ使用スルコトヲ得ヘク例ヘハ「エーテル」、石油「ベンヂン」「ベンゾール」「クロロホルム」、四塩化炭

素二硫化炭素等ノ如シ

斯ノ如キ有機溶剤ハ何レモ同様ニ使用セラレ得ヘキモノニシテ青酸ト有機溶剤ノ中ニ炭化「カルシウム」ヲ徐々ニ加フルコトニ依リ「シアンカルシウム」ヲ製造シ得ヘシ

然レトモ青酸ト混合セサル有機溶剤例ヘハ四塩化炭素二硫化炭素等ヲ使用スル時ハ特ニ巧妙ナル反應ヲ實施セシメ得ヘシ

即チ反應ニ必要ナル炭化「カルシウム」ノ全量ヲ反應容器ニ入レタル後必要量ノ非混合性有機溶剤ヲ注入シ更ニ計算量ノ九五乃至九九%ノ液体青酸ヲ静カニ全部注加スヘシ然ル時ハ青酸ト炭化「カルシウム」ハ有機溶剤ヲ境ニシテ分離ス故ニ之ヲ攪拌スルコトニヨリ青酸ト炭

化「カ」ルシウム」ハ徐々ニ反應ヲ開始スヘク製造ニ必要ナル原料ヲ豫メ全部反應容器中ニ收容シ然ル後攪拌速度ヲ加減スルコトニヨリ自由ニ反應セシメ得ヘキ特殊ノ利点ヲ有スル而モ他ノ如何ナル方法ヨリモ簡易安全ナルヲ特徴トス

而シテ前記ノ如ク炭化「カ」ルシウム」ヲ使用スル外炭化「カ」ルシウム」ト酸化「カ」ルシウム」水酸化「カ」ルシウム」、炭酸「カ」ルシウム」等ノ「カ」ルシウム」化合物ノ一種又ハ数種トノ混合物ヲ使用スルコトヲ得

今實施ノ一例ヲ挙クレハ左ノ如シ

先ツ攪拌器ヲ有スル反應容器ニ粉末炭化「カ」ルシウム」(純度七〇%)一瓩ヲ満シ更ニ二硫化炭素四瓩ヲ注加ス然

ル後九八%ノ液体青酸一、一三六瓩ヲ静カニ二硫化炭素ノ上部ニ注入スル時ハ比重ノ関係ニヨリ炭化「カルシウム」ハ最下部ニ液体青酸ハ最上部ニ二硫化炭素ハ中間部ニ境スヘシ而シテ攪拌器ニ依リテ徐々ニ青酸ト炭化「カルシウム」トヲ接触反應セシム反應速度ハ單ニ攪拌器ノ速度ノミニ依リテ簡單ニ調節セシメ得ヘシ反應ニ依リテ發生スル「アセチレン」「ガス」ハ冷却器ヲ通シテ外部ニ導クヲ得ヘシ而シテ此際「アセチレン」「ガス」ニ伴ハレテ逃出セントスル青酸「ガス」ハ冷却器ニヨリテ凝縮シ再ヒ反應容器ニ還ル反應終リタル後生成セル「シアンカルシウム」ハ二硫化炭素ト共ニ遠心分離機ニ入レテ分離スルカ又ハ吸引濾過機ニ依リテ分離スヘシ此際液体

青酸ハ合理的ニ炭化「カルシウム」ト反應シ最後ニ残留スル水分ハ過剰ノ炭化「カルシウム」ト反應スス　從テ製品ハ過剰ノ青酸並水分ヲ含ムコト無キヲ以テ取扱極メテ簡便ニシテ又安全ナリ　斯クシテ製造セラレタル「シアンカルシウム」ハ微細ナル灰白色ノ粉末ナリ又之ヲ壓縮シテ固形体トナスコトヲ得　而シテ燻蒸剤トシテ使用スルニ當リテハ粉末ノモノハ其儘使用シ得ヘク又固形体ノモノハ撒粉機ニヨリテ砕粉撒布スルモノトス又目的ニヨリテハ小型ノ固形体トシテ其儘使用スルヲ得ヘシ　斯ノ如キ粉末又ハ固形体ノ「シアンカルシウム」ハ空氣中ノ濕氣ニヨリテ容易ニ分解セラレ青酸「ガス」ヲ發生スルモノナリ　又上記ノ如ク「シアンカルシウム」ヲ分離シ

タル有機溶剤ハ直チニ沢ノ製造ニ使用シ得ルモノトス

特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ニ於テ本文ニ詳記スル如ク液体青酸ト炭化「カルシウム」又ハ炭化「カルシウム」ト酸化「カルシウム」水酸化「カルシウム」炭酸「カルシウム」等ノ「カルシウム」化合物ノ何レカ一種又ハ数種トノ混合物ヲ反應セシメテ「シアンカルシウム」ヲ製造スルニ當リ反應ヲ青酸ト混合シ又ハ混合セサル有機溶剤ノ存在ニ於テ行フ事ヲ特徴トスル粉末又ハ固形体ノ殺虫剤「シアンカルシウム」ヲ製造スル方法

陸軍大臣　林銑十郎

保存期限 永久

決裁指定 永久

決行指定 局長

主管

主務局課		大臣官房	
番號	受領	提出	受領
昭和九年一二一號	昭和一〇年一月一日	昭和十年三月十五日	昭和年月日

決行(決裁)後回覽	連帶
局長	局長

大臣

政務次官	主務局長
次官	高級副官
參與官	主務課長
書記官	主務副官 官房御用掛主計
審案筆記者	主務課員

政務次官 參與官 回付

決裁前後 連帶課名 永久甲 特許

受番 領號 昭和九年 貳第一一三八號

件名 特許證送付ノ件

起元廳(課)名 陸軍省工學校

決行(決裁)後回覽課名

10

一

一

陸普　副官ヨリ陸軍自動車學校長ヘ通牒

客年五月五日附自甲第二三三號ニ依ル左記出願特許ニ關シ別紙ノ通特許證送付ス

左　記

木材及石炭瓦斯發生器ニ於ケル「タール」質燒却用空氣孔ヲ設ケタル瓦斯發生爐

陸普第一三五三號　昭和十年三月十六

特許第一〇九〇八〇號

特許證

陸軍大臣

發明者　東京市　三木吉平

發明ノ名稱　木材及石炭瓦斯發生器ニ於ケル「タール」質燒却用空氣孔ヲ設ケタル瓦斯發生爐

出願公告　昭和九年十月十二日

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

昭和十年一月八日

特許局長官　中松眞卿　印

登錄通知
領收證

願書番號	昭和 9 年特許願第 6219 號
出願公告年月日	昭和 9 年 10 月 12 日
納付者	陸軍大臣
代理人	
領收年月日	
領收金額	金三十圓也 第一年乃至第三年分 特許料
登錄年月日	昭和10年 1月8日
特許番號	第 109080 號

注意
○第四年分以後ノ特許料ハ出願公告アリタルモノニ付テハ出願公告ノ日、出願公告ナキモノニ付テハ登錄ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
○特許證ハ追テ交付ス

2 / 28

代

閲

第一一三八号

二二五

登錄通知
領收證

願書番號	昭和 8 年特許願第 6924 號
出願公告年月日	昭和 9 年 10 月 10 日
納付者	陸軍大臣
代理人	
領收年月日	
領收金額	金三十圓也 第一年乃至第三年分 特許料
登錄年月日	昭和10年 1月8日
特許番號	第 109079 號

注意
○第四年分以後ノ特許料ハ出願公告アリタルモノニ付テハ出願公告ノ日、出願公告ナキモノニ付テハ登錄ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
○特許證ハ追テ交付ス

紀二二五九

昭和九年十二月廿六日

伍

二五

特許査定謄本

昭和八年特許願第 方九二四

發明ノ名稱 生麩ノ製造法

出願人 陸軍大臣

代理人

出願公告昭和九年十月十日

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

本願ニ付テハ拒絶ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ發明ハ

之ヲ特許スヘキモノトス

昭和九年十一月二日

特許局審査官 小山甲三 ㊞

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和 年 昭和九年十二月廿六日 特許局屬 高橋米太郎

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

注意

一　特許料ハ別紙納付書用紙ニ納付ズヘキ特許料ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シテ特許局ニ之ヲ差出スヘシ
（收入印紙ニハ消印ヲ爲スヘカラス）

二　特許料左ノ如シ

(イ)	第一年乃至第三年	毎年　十　圓
(ロ)	第四年及第五年	毎年　十五圓
(ハ)	第六年乃至第九年	毎年　二十五圓
(ニ)	第十年乃至第十二年	毎年　三十五圓
(ホ)	第十三年乃至第十五年	毎年　五十　圓

三　第一年乃至第三年ノ特許料（三十圓）ハ別紙記載ノ期間内ニ一時ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス
前記特許料ヲ前項ノ納付期間内ニ納付スルコト能ハサルトキハ其ノ期間内ニ事由ヲ具シテ期間ノ延長ノ請求ヲ爲スコトヲ得（請求書ニハ一圓ニ相當スル收入印紙ヲ貼附スルコトヲ要ス）此ノ場合ニ於テハ三十日以内ヲ限リ延長ヲ許可スルコトアルヘシ
第四年以後ノ特許料ハ各其ノ前年ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケズ
第四年以後ノ特許料ノ納付期間ハ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

四　利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

昭和九年特許願第六二九號

發明ノ名稱　木材及石炭瓦斯発生器ニ於ケルタールノ焼却用空気孔ヲ設ケタル瓦斯発生爐

出願人　陸軍大臣

代理人

出願公告昭和九年十月十二日

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

本願ニ付テハ拒絶ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ發明ハ之ヲ特許スヘキモノトス

昭和九年十二月二十二日　特許局審査官　木武　㊞

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和九年十二月廿六日　特許局屬　高橋米太郎

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

注意

一　特許料ハ別紙納付書用紙ニ納付ズヘキ特許料ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シテ特許局ニ之ヲ差出スヘシ
（收入印紙ニハ消印ヲ爲スヘカラス）

二　特許料左ノ如シ

(イ)	第一年乃至第三年	毎年　十　圓
(ロ)	第四年及第五年	毎年　十五圓
(ハ)	第六年乃至第九年	毎年　二十五圓
(ニ)	第十年乃至第十二年	毎年　三十五圓
(ホ)	第十三年乃至第十五年	毎年　五十圓

三　第一年乃至第三年ノ特許料（三十圓）ハ別紙記載ノ期間内ニ一時ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス
前記特許料ヲ前項ノ納付期間内ニ納付スルコト能ハサルトキハ其ノ期間内ニ事由ヲ具シテ期間ノ延長ノ請求ヲ爲スコトヲ得（請求書ニハ一圓ニ相當スル收入印紙ヲ貼附スルコトヲ要ス）此ノ場合ニ於テハ三十日以内ヲ限リ延長ヲ許可スルコトアルヘシ
第四年以後ノ特許料ハ各其ノ前年ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス
第四年以後ノ特許料ノ納付期間ハ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

四　利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

保存期限 永久
決裁指定
決行指定
平島

政務次官 参與官 回付
決裁 前後 連帶課名

受領番號 伍第二二五號
件名 「生麺ノ製造法」ニ関シ決定謄本送付ノ件
起元廳(課)名 陸軍糧秣本廠

大臣 委
政務次官
参與官
書記官
審案筆記者
次官 委
高級副官 平島
主務副官 官房御用掛主計
主務課員

主務局長
主務課長

主務局 受領 提出 課 昭和九年九月二八日 昭和九年一月八日
番號 鈍第一〇四五
大臣官房 受領 昭和 年 月 日 結了 昭和 年 月 日
連帶 局長 課長
決行(決裁)後回覧 局長 課長

陸軍

有 9.10 陸軍糧秣本廠

陸普　副官ヨリ陸軍糧秣本廠長ヘ通牒

客年六月十六日附糧本第一〇二二號ニ依ル首題出願特許ニ関シ別紙寫ノ通出願公告ノ決定謄本送付ス

陸普第六〇四四號　昭和九年拾月九日

昭和九年九月二十七日

出願公告ノ決定

昭和八年特許願第六九二号

發明ノ名稱　生麩ノ製造法

出願人　陸軍大臣

代理人

本願ハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定ス

昭和九年九月二十五日

特許局審査官　小山甲三

右謄本ハ原本ト相違ナキコト認證ス

昭和九年九月二十七日

特許局屬　高橋米太郎

八年 伍二二五 大

糧本第一三九七號

陸軍省 9.9.12 大臣官房

陸軍省 9.9.12 第 軍務課 銃砲課

軍

特許訂正書提出方ノ件通牒

昭和九年九月十一日

陸軍糧秣本廠長石川半三郎

陸軍省副官 牛島滿 殿

特許局審査官ノ直接指示ニ基キ先キニ提出セル「生麩ノ製造法」ヲ別紙ノ通リ訂正シ四通送附スルニ付特許局ヘ至急廻送方取計相成度

訂正明細書差出ノ件及明細書ニ大臣捺印ノ上特許局ヘ送付相成度

昭和九年九月拾四日

銃砲課

官房御中

昭和九年九月十五日

陸普第五五〇四號　昭和九年九月十五日

訂正明細書差出ノ件

願書番號　昭和八年特許願第六九二四號

發明ノ名稱　生麩ノ製造法

右出願ニ關シ審査官ノ直接指示ニヨリ別紙ノ通訂正明細書正副二通差出候也

昭和九年九月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林　銑十郎

特許局長官　中松眞卿殿

明細書

一、發明ノ名稱　生麺ノ製造法

二、發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ小麥粉以外ノ澱粉質ニ富ミル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ而シテ適當ナル可塑性及彈力性ヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺ノ原料トナスコトヲ特徴トスル生麺ノ製造法ニ係リ其ノ目的トスル處ハ「パン」又麺類等ノ主要原料タル小麥粉以外ノ原料ヲ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヨリ得ントシ且小麥粉ニ缺除セル榮養素ヲ補給シテ榮養價ヲ高メントスルニアリ。

三、發明ノ詳細ナル説明

本發明ハ小麥粉以外ノ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ而シテ適當ナル可塑性及彈力性ヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺原料トナスコトヲ特徴トスル生麺ノ製造法ニ係ルモノニシテ「パン」又ハ麺類等ノ製造ニ供スル生麺ハ主トシテ小麥粉又ハ「ライ」麥粉ヲ原料トナスモノニシテ現在迄ニ於テハ前記麥粉以外ニ生麺ノ原料トシテ知ラレタルモノナシ。

本發明者ハ小麥粉又ハ「ライ」麥粉ニ代ル生麺ノ原料ヲ得ンモノトシテ數年來諸種穀類ニ就キテ研究セル結

果澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ五分乃至十五分間處理スル時ハ極メテ粘延性ニ富ミ且適當ナル可塑性ト彈力性ヲ有スル物質ニ變化スルコトヲ發見シ被處理物質ヲ生麺原料ニ加フル時ハ從來不可能ナリシ配合モ容易ニ實施スルヲ得然モ榮養價優秀ナル製品ヲ得ルニ成功セリ。

從來ノ生麺ハ何レモ小麥粉又ハ「ライ」麥粉ヲ主要原料トナスニ依リ該麥粉ノ特有成分タル「グルテン」即チ「グルテニア」及「グリアジン」ヨリ成ル蛋白質ノ粘延性ト強靱ナル皮膜性ヲ利用シタルモノナレトモ本發明ノ方法ヲ以テ得タル生麺ハ前記「グルテン」ニ依ル機構ト全

ゥ異リ澱粉質ニ富メル物質ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ニテ處理シテ得タル物質ノ粘延性ト之ニ伴フ可塑性及彈力性ヲ利用シタルモノナリ。而シテ從來小麥粉以外ノ澱粉質資料ヲ豫メ熱處理ヲ施シ生麵原料トスル方法アリ然レトモ其ノ實施スル所ハ何レモ澱粉質資料ヲ補助原料トシテ主要原料タル小麥粉等ニ加ヘントスル操作ニ過キス卽チ原形ニテハ消化不良ノ澱粉質ヲ消化シ易キ形狀トナシ或ハ生麵ノ素地ヲ滑カナラシムルト共ニ該生麵中ニ均一ナル分布ヲ行ハシムル目的ヲ以テ澱粉質ヲ蒸熱又ハ煮熟シテ糊化セシメ又ハ高溫室內ニ澱粉質ヲ噴射シ或ハ穀類膨脹法ニ依リテ處理シテ澱粉質ヲ乾燥膨化

セシメテ生麺原料ヲ製造スル等ナリ而シテ上記ノ如ク處理セル澱粉質資料ヲ用ヒタルモノニ「馬鈴薯パン」「玄米パン」歐洲ニ於ル「Kパン」「KKパン」等アリ「Kパン」及「KKパン」ハ馬鈴薯粉ヲ一〇%及二〇%含有スルモノニシテ實驗上補助原料トシテ加ヘラルル澱粉質資料ハ製品全量ノ三〇%ヲ超ルヲ得サルモノニナリ即チ三〇%以上ヲ用フル時ハ生麺ハ粘延性ヲ減スルノミナラス適當ナル可塑性及彈力性ヲ失ヒテ脆弱トナリ成形及原形ノ保持困難トナリ生麺タルノ資格ヲ失スルモノナリ。

本願ノ方法ニ依リ處理セル澱粉質資料ハ從來行ハレタル熱處理ニ依ルモノニ比シテ頗ル内容ヲ異ニスル性

モノニシテ即チ粘延性ヲ著シク增加シ柔軟ナル可塑性及彈力性ヲ有シ且製品ニ甘味ヲ生スル點等ヨリ觀察シ單ナル糊化ニ止ラス糖化ノ範圍ニ變化シタルモノト認メラルルモノニシテ壓力四十封度濕度攝氏百四十度以下ニテ數多實驗ヲ行ヒタルモ本法ノ如キ作用及効果ヲ有セス且本法ニ依リ處理セル穀粉質資料ハ從來ノ如ク補助原料タル位置ヲ脫シ生麵ノ主要原料トシテ全量ノ一〇〇%又ハ七〇%ヲ優ニ使用シ得ルモノニシテ從來ノ方法ニ於テ全ク不可能ナリシ分野ヲ開拓シタルモノニシテ新規ノ發明ナリ。

本發明ノ方法ハ前述ノ如ク穀粉質ニ富メル物質ニ應用セラルル故其ノ工業的價値極メテ廣範ニシテ之ヲ

小麦粉等ニ代用シ得ルヲミナラス小麦ノ生理價低キ蛋白質又ハ「ビタミン」B不足等ノ榮養的缺陷ヲ補足シ得ル利點アリ。

從テ小麦粉ヲ主要原料トスル「パン」或ハ麺類等ハ其ノ榮養的缺陷ヨリ米飯ヲ常食トスル我邦人ノ主食トシテ適當ナラサルモ之ニ榮養價高キ穀類ヲ本發明ノ方法ニ依リ得タル物質ヲ加フル時ハ榮養的缺陷ヲ補ヒテ優ニ主食トシ「ハ」攝取スル得ルナリ更ニ在來ノ嗜好、習慣等ニ依リテ採食ヲ好マサリシ穀類モ亦加工調理ニ得ル利點アリ。

玄米加工食ニ一例ヲ掲クルハ現今問題トナリツツアル玄米食ハ榮養學的ニ極メテ優秀ナル榮養價ヲ有

スルトキモ實際上炊飯ノ困難ト精白米食ニ馴レタル一般人士ノ嗜好ニ適セス且精白米食ニ比シ消化吸收不良ナル缺點アリ。

然ルニ玄米ヲ粉末トナシヲトレヲ本發明ノ方法ヲ以テ處理セル玄米ヲ以テ「パン」又ハ麺類等トナシテ採食スル時ハ玄米飯ノ如ク消化吸收不良ナラス且該玄米飯ニ比シテ極メテ採食シ易ク卽チ嗜好ニ適シタル製品ヲ得。

斯ノ如キハ單ナル一例ニ過キサル」モ本發明ノ方法カ如何ナル地方ニ於テモ簡單ニ實施シ得ルノミナラス榮養的見地ヨリスルモ又經濟的方面ヨリ見ルモ極メテ實用的價値ニ富タル方法ナリ。

實施ノ一例ヲ玄米ニ就キテ述ヘントス。

玄米ヲ主要原料トスル「パン」ノ配合割合ハ一例ヲ示セハ。

玄米粉七〇〇、小麥粉三〇〇、食塩一〇、酵母二〇、水若干ニテ最初玄米粉七〇〇ニ水三五〇乃至四〇〇ヲ加ヘテ均一ニ混和シ然ル後コレヲ「オートクレーブ」又ハ壓力釜中ニテ壓力四十封度温度攝氏百四十度位ノ蒸氣ニテ十分間乃至十五分間處理シタル後取出ス而シテ該被處理玄米ノ冷却セサル中ニ前記各材料ヲ加ヘ夫ヨリ混捏スル時ハ生麺トナル、爾後通常行ハルル製法ニ如ク仕意ニ成形シテ焼与ニハ所要ノ「パン」ヲ得。

同樣ニ玄米ヲ主要原料トセル「ウドン」及乾「ウドン」ノ配

合ノ一例ヲ示セバ。

玄米粉七〇〇、小麦粉三〇〇、食塩水若干。

先ヅ玄米粉七〇〇ニ水二五〇ヲ加ヘテ均一ニ混和シタル後ヲ「オートクレーブ」又ハ壓力釜中ニテ壓力六〇封度温度攝氏百五十度内外ノ蒸氣ニテ五分間處理シタル後取出シ該被處理玄米ニ前記材料ヲ加ヘテ混捏スル時生麺トナルニ依リ該生麺ヲ通常「パン」ニテ「ウドン」ニ焼スル事ヲ得。

而シテ從來小麦粉以外ノ材料ニテ乾「ウドン」ヲ製造スル時ハ極メテ折損シ易ク困難トサレタルモノナレト本法ニ依リ製シタル「ウドン」ニハ此缺點ナク優良ナル乾「ウドン」ヲ容易ニ製造スルコトヲ得ルモノナリ。

四、特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ヲ以テ本文ニ明記スル如ク小麥粉以外ノ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度温度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ且適當ナル可塑性ト彈力性トヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺原料トナスコトヲ特徴トスル生麺ノ製造法。

陸軍大臣林銑十郎

保存期限	決裁指定	決行指定
永久		

政務次官 参與官 回付 決裁 前 連帯 課名 衣

受領番號	件名
伍第一九八號其三	出願特許ニ關シ拒絶査定謄本送付ノ件

起元庵(課)名

9.7.26 寺 衣糧課

陸軍糧秣本廠

大臣

委

主務局課	番號	受領	提出	受領	大臣官房	了結
	第五八〇號	昭和九年七月二三日	昭和九年七月廿八日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

連帯	決裁(決行後回覧)
局長	局長
課長	課長

政務次官	主務局長
参與官	主務課長
書記官	高級副官
書記	主務副官
主務課員	

陸普　副官ヨリ陸軍糧秣本廠長ヘ通牒

五月二十五日附糧本第八一九號ニ依ル左記

出願特許ニ関シ別紙ノ通拒絶査定謄本送

付ス

左記

簡易壓濾筒

【陸普第四六四四號　昭和九年七月廿八日】

陸　軍

伍第一九八號

昭和九年七月二十日

拒絶査定謄本

昭和九年特許願第六二一八號

發明ノ名稱　簡易壓濾筒

出願人　陸軍大臣

代理人

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

主文

本願ハ之ヲ拒絶スヘキモノトス

理由

本願ハ昭和九年六月十六日附ヲ以テ通知シタル理由ニ依リ之ヲ拒絶スヘキモノト認ム

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

昭和九年七月十八日　特許局審査官

追書

意見書ニ於テ本願ハ新規ノ發明ナリト主張スレトモ濾枠上ニ濾布ト濾紙トヲ交互ニ捲重ネテ濾布及濾紙ノ缺点ヲ互ニ補整シ得ル様ニシタル油濾過器カ引例中ニ明記セラレタル所ナル以上唯本願ニ於テ右濾過器ニ細菌濾紙ヲ使用シテ水中ノ細菌ヲ濾別シ得ル様ニナレタルカ如キハ當業者ノ容易ニ想到シ得ヘキ所ナルヲ以テ本願ハ新規ノ發明ヲ構成スルモノト認メ難キコトニ示シタル如シ

仍テ右ノ主張ハ採用セス

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和九年七月二十日

特許局屬　高橋米太郎

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和九年七月一十日

特許局屬 高橋米太郎

陸軍省
9.7.9
大臣官房

陸 第一八〇五〇號

訂正明細書及意見書提出ノ件通牒

昭和九年七月七日

陸軍糧秣本廠長 石川半三郎

陸軍省副官 牛島滿殿

六月二十二日陸普第三八六五號通牒ニ係ル「生麵ノ製造法」ニ關スル訂正明細書四通及六月二十五日陸普第三九三二號通牒ニ係ル「簡易壓濾筒」ニ關スル意見書參通別紙ノ通リ送付ス

訂正明細書差出ノ件及明細書ニ大臣捺印ノ上特許局ヘ送達相成度

（差出期日七月十四日限リ）

一 昭和九年七月拾壹日

官房御中

昭和九年七月十二日

銃砲課

陸普第四二八八號 昭和九年七月十二日 官房控

訂正書差出ノ件

昭和八年特許願第六九二四號
發明ノ名稱生麩ノ製造法
右出願ニ關シ昭和九年六月十一日附ノ通知ニ從ヒ
別紙ノ通リ訂正明細書正副二通差出候也

昭和九年七月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地
陸軍大臣 林銑十郎

特許局長官 中松眞卿殿

明細書

官房控

一、發明ノ名稱　生麺ノ製造法

二、發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ而シテ適當ナル可塑性及彈力性ヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フルコトヲ特徴トスル生麺ノ製造法ニ係リ其ノ目的トスル處ハ「パン」又ハ麺類等ノ主要原料タル小麥粉以外ノ原料ヲ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヨリ得ントシ且小麥粉ニ缺除セル榮養素ヲ補給シテ榮養價ヲ高メントスルニアリ

三、發明ノ詳細ナル説明

本發明ハ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度温度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ而シテ適當ナル可塑性及彈力性ヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フルコトヲ特徴トスル生麺ノ製造法ニ係ルモノニシテ「パン」又ハ麺類等ノ製造ニ供スル生麺ハ主トシテ小麥粉又ハ「ライ麥粉」ヲ原料トナスモノニシテ現在迄ニ於テハ前記麥粉以外ニ生麺ノ原料トシテ知ラレタルモノナシ

本發明者ハ小麥粉又ハ「ライ麥粉」ニ代ル生麺ノ原料ヲ得ンモノトシテ數年來諸種穀類ニ就キテ研究セル結

果澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ五分乃至十五分間處理スル時ハ極メテ粘延性ニ富ミ且適當ナル可塑性ト彈力性ヲ有スル物質ニ変化スルコトヲ發見シ被處理物質ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フル時ハ從來不可能ナリシ配合モ容易ニ實施スルヲ得然モ榮養價優秀ナル製品ヲ得ルニ成功セリ

從來ノ生麺ハ何レモ小麥粉又ハ「ライ麥粉」ヲ主要原料トナス=依リ該麥粉ノ特有成分タル「グルテン」即チ「グルテニン」及「グリアジン」ヨリ成ル蛋白質ノ粘延性ト強靱ナル皮膜性ヲ利用シタルモノナレトモ本發明ノ方法ヲ以テ得タル生麺ハ前記「グルテン」ニ依ル機構ト全

ク異リ澱粉質ニ富メル物質ヲ壓力四十封度温度攝氏百四十度以上ニテ處理シテ得タル物質ノ粘延性ト之ニ伴フ可塑性及彈力性ヲ利用シタルモノナリ

而シテ從來小麥粉以外ノ澱粉質資料ヲ豫メ熱處理ヲ施シ生麺原料トスル方法アリ然レトモ其ノ實施スル所ハ何レモ澱粉質資料ヲ補助原料トシテ主要原料タル小麥粉等ニ加ヘントスル操作ニ過ギス即チ原形ニテハ消化不良ノ澱粉質ヲ消化シ易キ形狀トナシ或ハ生麺ノ素地ヲ滑カナラシムルト共ニ該生麺中ニ均一ナル分布ヲ行ハシムル目的ヲ以テ澱粉質ヲ蒸熱又ハ煮熟シテ糊化セシメ又ハ高温室内ニ澱粉質ヲ噴射シ或ハ穀類膨脹法ニ依リテ處理シテ澱粉質ヲ乾燥膨化

セシメテ生麺原料ヲ製造スル等ナリ而シテ上記ノ如ク處理セル澱粉質資料ヲ用ヒタルモノニ「馬鈴薯パン」「玄米パン」歐洲ニ於ル「Kパン」「KKパン」等アリ「Kパン」及「KKパン」ハ澱粉質ヲ一〇%及ニ〇%含有スルモノニシテ實驗上補助原料トシテ加ヘラル澱粉質資料ハ製品全量ノ三〇%ヲ超ルヲ得サルモノナリ即チ三〇%以上ヲ用フル時ハ生麺ノ粘延性ヲ減スルノミナラス適當ナル可塑性及彈力性ヲ失ヒテ脆弱トナリ成形及原形ノ保持困難トナリ生麺タルノ資格ヲ失スルモノナリ。

本願ノ方法ニ依リ處理セル澱粉質資料ハ從來行ハレタル熱處理ニ依ルモノニ比シテ頗ル内容ヲ異ニスル

モノニシテ即チ粘延性ヲ著シク増加シ柔軟ナル可塑性及彈力性ヲ有シ且製品ニ甘味ヲ生スル點等ヨリ觀察シ單ナル糊化ニ止ラス糖化ノ範圍ニ変化シタルモノト認メラルルモノニシテ壓力四十封度温度攝氏百五十度以下ニテ数多實驗ヲ行ヒタルモ本法ノ如キ作用及効果ヲ有セス且本法ニ依リ處理セル澱粉質資料ハ從來ノ如ク補助原料タル位置ヲ脱シ生麺ノ主要原料トシテ全量ノ一〇〇%又ハ七〇%ヲ優ニ使用シ得ルモノニシテ從來ノ方法ニ於テ全ク不可能ナリシ分野ヲ開拓シタルモノニシテ新規ノ發明ナリ。

本發明ノ方法ハ前述ノ如ク澱粉質ニ富ム物質ニ應用セラルル故其ノ工業的價値極メテ廣範ニシテ之ヲ小麥粉

等ニ代用シ得ルノミナラス小麥ノ生理價低キ蛋白質又ハ「ビタミン」Bノ不足等ノ榮養的缺陷ヲ補足シ得ル利點アリ。

從テ小麥粉ヲ主要原料トセル「パン」或ハ麺類等ハ其ノ榮養的缺陷ヨリ米飯ヲ常食トスル我邦人ノ主食トシテ適當ナラサレトモコレニ榮養價高キ穀類ヲ本發明ノ方法ニ依リ得タル物質ヲ加フル時ハ榮養的缺陷ヲ補ヒテ優ニ主食トシテ攝取スルヲ得ルナリ、更ニ在來ノ嗜好、習慣等ニ依リテ採食ヲ好マサリシ穀類モ亦加工調理シ得ル利點アリ。

玄米加工食ニ一例ヲ揭クレハ現今問題トナリツツアル玄米食ハ榮養學的ニハ極メテ優秀ナル榮養價ヲ有

スレトモ實際上炊飯ノ困難ト精白米食ニ馴レタル一般人士ノ嗜好ニ適セス且精白米食ニ比シ消化吸收不良ナル缺點アリ。

然ルニ玄米ヲ粉末トナシコレヲ本發明ノ方法ヲ以テ處理セル玄米ヲ以テ「パン」又ハ麺類等トナシテ採食スル時ハ玄米飯ノ如ク消化吸收不良ナラス且該玄米飯ニ比シテ極メテ採食シ易ク即チ嗜好ニ適シタル製品ヲ得。

斯ノ如キハ單ナル一例ニ過キサルモ本發明ノ方法カ如何ナル地方ニ於テモ簡單ニ實施シ得ルノミナラス榮養的見地ヨリスルモ又經濟的方面ヨリ見ルモ極メテ實用的價値ニ富メル方法ナリ。

實施ノ一例ヲ玄米ニ就キテ述ヘントス

玄米ノミヲ用ヒタル餅ノ製造。

玄米一〇〇ニ對シテ水五〇ヲ加ヘテ均一ニ混和シ該混合物ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度ノ蒸氣ニテ十五分間處理シタル後取出シテ成形スル時ハ通常ノ餅ノ如キ感アル玄米餅ヲ得。

玄米ヲ主要原料トスル「パン」ノ配合割合ノ一例ヲ示セハ。

玄米粉七〇、小麥粉三〇、食塩一〇、酵母二〇、水若干ニシテ最初玄米粉七〇ニ水三五〇乃至四〇〇ヲ加ヘテ均一ニ混和シ然ル後コレヲ「オートクレーブ」又ハ壓力釜中ニテ壓力四十封度溫度攝氏百四十度位ノ蒸

氣ニテ十分至十五分處理シタル後取出ス、而シテ該被處理玄米ノ冷却セサル中ニ前記各材料ヲ加ヘテヨク混捏スル時ハ生麺トナル、爾後通常行ハルル製法ノ如ク任意ニ成形シテ焼上レハ所要ノ「パン」ヲ得。

仝様ニ玄米ヲ主要原料トセル「ウドン」及乾「ウドン」ノ配合ノ一例ヲ示セハ。

玄米粉七〇〇、小麥粉三〇〇、食塩水若干

先ツ玄米粉七〇〇ニ水二五〇ヲ加ヘテ均一ニ混和シタル後コレヲ「オートクレーブ」又ハ壓力釜中ニテ壓力六〇封度温度攝氏百五十度内外ノ蒸氣ニテ五分間處理シタル後取出シ該被處理玄米ニ前記材料ヲ加ヘテ混捏スル時ハ生麺トナルニ依リ該生麺ヲ通常ノ方法

ニテ「ウドン」トナス事ヲ得。

而シテ從來小麥粉以外ノ材料ニテ乾「ウドン」ヲ製造スル時ハ極メテ折損シ易ク困難トサレタルモノナレト本法ニ依リ製シタル「ウドン」ニハ此缺點ナク優良ナル乾「ウドン」ヲ容易ニ製造スルコトヲ得ルモノナリ。

四、特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ヲ以テ本文ニ明記スル如ク澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ且適當ナル可塑性ト彈力性トヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フル事ヲ特徴トスル生麺ノ製造法。

陸軍大臣　林銑十郎

保存期限 永久

決裁指定

決行指定

大臣官房		主務局課		
了結	受領	提出	受領	番號
昭和 年 日	昭和 年 六月廿一日	昭和 一昭和九年五月廿一日	昭和 九年 六月 一五 日	八年 五第一〇四

連帶 決行(決裁)後回覽

局長 課長

局長 課長

大臣

政務次官 参與官 書記官 審案 錄記者

主務局長 主務課長 主務副官 高級副官 主務課員

牛島

受番 領號 八年 伍第二二五號其四

起元年(課)名

件名 「生麵ノ製造法ニ關シ訂正明細書提出ノ件」

陸軍糧秣本廠

政務次官 参與官 回付 決裁 前後 連帶課名

決行(決裁)後回覽課名

陸普　副官ヨリ陸軍糧秣本廠長ヘ通牒

客年六月十六日附糧本第一〇二二號ニ依ル首題出願特許ニ関シテ意見書提出中ノ處更ニ別紙ノ通照會アリタルニ付七月七日迄ニ訂正明細書正副四通提出相成度依命通牒ス

陸普第三八六五號　昭和九年六月廿貳日

昭和九年六月十二日

第二二五号

昭和九年六月十日

特許局長官

陸軍大臣殿

昭和八年特許第六九二四号ニ關シ

昭和九年七月十四日限リ左記ニヨル訂正明細書

副ニ通ヲ差出スヘシ

右ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ本願ハ之ヲ無效ト爲スヘシ

記

一、小麦粉以外ノ澱粉質資料ヲ麺麭原料ト

スルニ當リ予メ之ヲ加熱シテ澱粉粒子ヲ

破壞シ粘性ヲ增大セシメテ使用スルコトハ

例ヘハ英國特許第一九〇九年第一四四四号及

英國特許第二六〇二七七号二六〇二七八号明細書

等ニ於テ公知ニ屬ス

從テ

本願ニ於テ特ニ主力ヲ置ク温度、温度調節百四十度

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

以上ノ下ニ澱粉質ヲ處理スルコトカ前記ノ如ク
ノモノト作用效果ニ於テ如何ニ相違スルカヲ
明確ニセラルヘシ（發明ノ詳細ナル說明ノ項ニ
於テ乃スヘシ）

尚英國特許第九〇九年第四四四号ハ玉蜀黍ヲ
蒸熱シ澱粉粒子ヲ破壞シ之ヲ麦粉ニ加ヘ
麵麭トスモノ

英國特許第二六〇二七一八号ハ澱粉質ヲ
華氏五〇〇—六〇〇度ニ加熱シタル室内ニ噴
射シテ得タルモノヲ麵麭製造ニ供スルモノナリ

閣

糧本第 号

伍二二五號 三

「生麺ノ製造法」ニ關シ意見書提出ノ件通牒

昭和九年四月廿五日　陸軍糧秣本廠長　千葉郁治

陸軍省副官　牛島滿殿

陸普第二三八二號通牒ニ係ル首題ノ件ニ關シ別紙意見書三通提出ス

意見書提出ノ件及意見書ニ
大臣探ノ上特許局ニ送達
相成度（提出期間五月七日限）

昭和九年五月三日

銃砲課

宮廣御中

陸軍省
5.-1
陸軍銃砲課

陸普第二六七八號　昭和九年五月三日

官房控

意見書ヲ提出ノ件

昭和八年特許願第六九二四號

發明ノ名稱　生麩ノ製造法

右出願ニ關シ昭和九年四月四日附ノ通知ニ

從ヒ別紙ノ通意見書ヲ提出候也

昭和九年五月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林　銑十郎

特許局審査官　堀場秀雄殿

意見書

官房控

意見申立ノ要旨

昭和八年特許願第六九二四號ハ左記ノ理由ニ依リ特許法第一條ニ該當スルモノト御決定相成度

理由

昭和九年四月四日附廉書ニ據レハ本願ハ麺麭等ノ原料トシテ玄米其他雑穀類ヲ使用スルコトハ本願前既ニ行ハルルトコロナリ。

玄米等ヲ煮熟スルニ加壓加熱スルトキハ著シク粘稠性トナルコトハ玄米食ヲ行ハルルニツレテ高壓鍋ヲ使用セラルルコト多キ現時ニ於テ廣ク知ラルル所ナリ。

例ヘハ清水式榮養鍋ノ説明書参照ニ

ノ如キ公知ノ事實ヨリ當業者ノ容易ニ實施シ得ヘキ程度ナルヲ以テ特許法第一條ニ該當セスト査定セラレアルモ本願ハ前記理由ニハ全ク適合セサル新規ノ考案ニシテ當業者ノ容易ニ實施シ得ルモノニ非ラス。

即チ麺麭等ノ原料トシテ玄米其他雜穀類ヲ使用スルコトハ本願前既ニ普通行ハルルトコロナリト断定セラレアルモコレ極メテ皮相ノ見解ニシテ未タ現在迫ノ研究ニ於テハ麺麭ノ主ナル原料トシテハ小麦及ライ麦以外ニ求ムルヲ得サルモノニシテ數年前ヨリ研究者カコレニ代用スヘキ原料ヲ發見セントト努力シツツアル現況ナリ。

資源局編纂、工業研究揖覽及試驗研究項目要覽食料ノ部参照。

即チ明細書ニ詳記セル如ク麺麭ヲ構成スルニ必要ナル性質ヲ具備セル物質トシテ未タ「グルテン」以外ニ發見セラレス而モ該「グルテン」ハ小麦及ライ麦ノ一部ニノミ存スルモノニシテ玄米其他雑穀類ニハ含有セラレザルモノナルヲ以テ麺麭ノ原料トシテ玄米其他雑穀類ヲ使用スルコト能ハサルモノナリ。而シテ生麺ニ小麦粉以外ノ諸種穀粉ヲ使用スル場合ニ於テ該穀粉ヲ生麺全量ノ三〇%以上トスル時ハ全ク麺麭トシテノ形態ヲ失フ事實驗上明カニシテ且該穀粉カ麺麭ノ鬚立ヲ害シ製品ノ品質ヲ著シク低下セシムル欠点アルハ廣ク知ラルルトコ

ロニシテ又通常玄米パント稱スル如キハ玄米粉又ハ玄米飯ヲ何等加工スルコトナク生麺ニ一〇%程度ニ混入シ且ツ「カルメラ」等ニテ着色シ又ハ着色セスシテ製シタル麺麭ナレハ名ハミ玄米パント云フニ過キサルモノニシテ要スルニ麺麭ノ主ナル原料トシテハ依然小麦ヲ用ヒ玄米其他雜穀類ハ單ニ添加物或ハ該穀類ノ榮養的價値又ハ嗜好的價値ヲ附加スルタメ少量便用スルモノナレハ本願ノ如ク小麦以外ノ雜穀類ヲ主ナル原料トセル生麺ヲ製シ得タルハ工業的價値極メテ大ナル新規ノ發明ナリ。

又玄米等ヲ煮熟スルニ加壓加熱スル時ハ著シク粘稠性トナルコトヲ公知ナリトシ清水式榮養鍋ノ説明書ヲ引

用セラルルモ本願ニハ全ク適用セラレサル引例ト謂フヘシ。

即チ引例セラルル如ク玄米等ヲ煮炊スルニ加壓加熱スル時ハ粘稠性ヲ示スコトハ公知ナルモ該粘稠性ハ單ニ嗜好ニ適スル程度ノ「ネバリ」ナレハコレニ伴フ壓力モ亦參拾封度毎平方吋以上ヲ用フルコト能ハサルヤリ(清水式榮養鍋ノ説明書參照)

而シテ前述ノ如キ粘稠性ハ生麺ニ具備スヘキ條件即チ粘延性、可塑性及ヒ彈力性ヲ有セス且表面ノミ粘稠性トナル點ヨリ本願ノ如ク生麺ニ適スル條件ヲ具備シ而モ均質ナル物質ヲ得ラレサルニヨリ全ク別個ノ着想ニ據非ス。ト明カニシテ當業者ノ容易ニ實施シ得ヘキモノニ

非ス。

叙上ノ如キ理由ヨリ本願ハ生麺製造上價値アル新規ノ發明ナリ。

陸軍大臣　林　銑十郎

保存期限	決裁指定	決行指定
永久	課長専任	千鳥

政務次官 参與官 回付

決裁前 連帶 課名 後 衣

受領番號	件名
八年 伍第二二五號其二	「生麺ノ製造法」ニ関シ意見書提出ノ件

起元廳(課)名

陸軍編纂本部

主務局課 番號	受領	提出	大臣官房 受領	結了
八年 五第一〇四號	昭和九年四月十日	昭和九年四月十日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

連帶 決行(決裁)後 回覧

局長	課長	主務課員
局長	課長	

主務局長	主務課長	高級副官	主務副官 官房 御用掛 主計	政務次官	参與官	書記官	審案 筆記者
		委		委			

大臣 委

陸軍

陸軍省 9.4.13. 時 秘書課

陸普

副官ヨリ陸軍糧秣本廠長ヘ通牒

客年六月十六日附糧本第一〇二二號ニ依ル首題出願特許ニ関シ別紙ノ通照會アリタルニ付四月二十八日迄ニ意見書三通提出相成度依命通牒

陸普第二三八二號　昭和九年四月拾八日

昭和九年四月四日　特許局審査官　堀場秀雄

昭和八年　陸軍大臣殿

特許　第九二四號

本願ハ左ノ理由ニ依リ之ヲ拒絶スヘキモノト認ム之ニ對シ意見アラハ昭和九年五月七日限リ意見書ヲ提出スヘシ

理由

本願ハ左記事由ニ依リ特許法第一條ニ該當セサルモノト認ム

一、麺麭ノ発酵ニ際シ酵母ニ善通ニ行ハレタルモノ

一、亦未だ発酵ニ於ける酵母ニ於ける者ニ於ける粘稠性トナルモノ

亦未だ発酵ニ於ける高圧釜ガ使用セラレタルモノ多キ現状ナリ

昭和九年四月四日

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

例ヘバ清水式某巻鈔ノ注解書ニ於
テ明治四十年度ノ教科書ニ関スル
ノ如キ事実ヲ虚構シ生徒トシテ之ヲ生徒ニ
説示シ来リ実ニ虚書ノ甚ダシキモノ
ト謂フベシ

仏第二二五號 一

七月六日

願書番號通知

昭和八年特許願第 6924 號ニ付

昭和八年七月廿九日差出ニ係ル特許願書ニ附シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス

追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ必ス之ニ前記願書番號(昭和　年特許願第　號)及發明ノ名稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用スヘシ

昭和八年七月四日

陸軍特許局

225

陸軍省
受領
伍
二二五
号

糧本第一八二二号

特許出願ノ件上申

昭和八年六月十六日　陸軍糧秣本廠長　奥田德三郎

陸軍大臣　荒木貞夫殿

左記發明ニ對シ特許出願セラレ度別紙特許願書譲渡證並ニ明細書各四通添付上申ス

記

一、發明ノ名稱　生麩ノ製造法

一、發明者　陸軍一等主計　阿久津正藏
　　鈴木猛夫

陸軍省
8.6.17
104
銃砲課

陸軍糧秣廠

陸軍
8.6.17
文書
房

本文申越ノ通特許願及明細書ニ大臣捺印ノ上譲渡證ト共ニ特許局ヘ送達セラレ度

昭和八年六月廿日　銃砲課

大臣官房御中

特許願

一、發明ノ名稱　生麺ノ製造法

一、發明者　東京市豊島區目白町二丁目
千六百五十七番地
東京市淺草區榮久町二十八番地
阿久津正藏
鈴木猛男

右出願ニ關シ別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度候也

昭和八年六月二十九日

東京市麹町區永田町一丁目一番地
陸軍大臣　荒木貞夫

陸書第四一二六號　昭和八年六月廿九日

特許局長官　中松眞卿殿

添附書類目錄

一、明細書　貳通

一、譲渡證　壹通

一發明ノ名稱生麺ノ製造法ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ讓渡致候
右私等ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ讓渡致候
也

東京市豊島區目白町二丁目
千六百五十七番地
阿久津正藏

昭和八年六月十五日

東京市淺草區榮久町二十八番地
鈴木猛男

陸軍大臣　荒木貞夫殿

明細書

一、發明ノ名稱　生麺ノ製造法

二、發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ生麺ノ製造法ニ於テ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ處理シテ粘延性ニ富ミ而シテ適當ナル可塑性及彈力性ヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フルコトヲ特徴トスル生麺製造法ニ係リ其ノ目的トスル処ハ「パン」又ハ麺類等ノ主要原料タル小麥粉以外ノ原料ヲ澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヨリ得ントシ且小麥粉ニ欠除セル榮養素ヲ補給シテ榮養價ヲ高メ

ントスルニアリ。

三、發明ノ詳細ナル説明

「パン」又ハ麺類等ノ製造ニ供スル生麺ハ主トシテ小麦粉ヲ原料トナスモノニシテ若シ小麦粉以外ノ諸種穀類粉等ヲ小麦粉ニ加フル場合ニ於テモ製品全量ノ三〇%以上ヲ用フルコトハ實際上至難ノ事ニシテ即チ粘延性ヲ減スルノミナラス適當ナル可塑性及彈力性ヲ失ヒテ脆弱トナリ成形及原形ノ保持困難トナリ生麺タルノ資格ヲ失スルモノナリ。

本發明者ハ叙上ノ欠点ヲ除去セントシテ數年来諸種穀類ニ就キテ研究セル結果澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度温度摂氏百四十度以上ノ

蒸氣ニテ五分乃至十五分間処理スル時ハ極メテ粘延性ニ富ミ且適當ナル可塑性ト彈力性ヲ有スル物質ニ変化スルコトヲ發見シ、被処理物質ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フル時ハ從来不可能ナリシ配合モ容易ニ實施スルヲ得然モ榮養價優秀ナル製品ヲ得ルニ成功セリ。

從来ノ生麺ハ何レモ小麦粉ヲ主要原料トナスニ依リ小麦粉ノ特有成分タル「グルテン」即チ「グルテニン」及「グリアジン」ヨリ成ル蛋白質ノ粘延性ト強靭ナル皮膜性ヲ利用シタルモノナレトモ本發明ノ方法ヲ以テ得タル生麺ハ前記「グルテン」ニ依ル機構ト全ク異リ澱粉質ニ富メル物質ヲ高溫高壓ニテ處理シテ得タル物質ノ

粘延性ト之ニ伴フ可塑性及彈力性ヲ利用シタルモノナリ。

本發明ノ方法ハ前述ノ如ク澱粉質ニ富メル物質ニ應用セラルル故其ノ工業的價値極メテ廣範ニシテ之ヲ小麥粉等ニ代用シ得ルノミナラス小麥ノ生理價低キ蛋白質又ハ「ビタミン」Bノ不足等ノ榮養的欠陥ヲ補足シ得ル利点アリ。

從テ小麥粉ヲ主要原料トセル「パン」或ハ麵類等ハ其ノ榮養的欠陥ヨリ米飯ヲ常食トスル我邦人ノ主食トシテ適當ナラサルトモコレニ榮養價高キ穀類ヲ本發明ノ方法ニ依リ得タル物質ヲ加フル時ハ榮養的欠陥ヲ補ヒテ優ニ主食トシテ攝取スルヲ得ルナリ、更ニ在来

ノ嗜好習慣等ニ依リテ採食シ好マサリシ穀類モ亦加工調理シ得ル利点アリ。

玄米加工食ニ一例ヲ掲ゲレハ現今問題トナリツツアル玄米食ハ榮養學的ニハ極メテ優秀ナル榮養價ヲ有スレトモ實際上炊飯ノ困難ト精白米食ニ馴レタル一般人士ノ嗜好ニ適セス且精白米食ニ比シ消化吸收不良ナル欠点アリ。

然ルニ玄米ヲ粉末トナシコレヲ本發明ノ方法ヲ以テ処理セル玄米ヲ以テ「パン」又ハ麺類等トナシテ採食スル時ハ玄米飯ノ如ク消化吸收不良ナラス且該玄米飯ニ比シテ極メテ採食シ易ク即チ嗜好ニ適シタル製品ヲ得。

斯ノ如キハ單ナル一例ニ過キサルモ本發明ノ方法カ如何ナル地方ニ於テモ簡單ニ實施シ得ルノミナラス榮養的見地ヨリスルモ亦經濟的方面ヨリ見ルモ極メテ實用的價値ニ富メル方法ナリ。

實施ノ一例ヲ玄米ニ就キテ述ヘントス。

玄米ヲ主要原料トスル「パン」ノ配合割合ノ一例ヲ示セハ。

玄米粉七〇〇、小麦粉三〇〇、食塩一〇、酵母二〇、水若干

ニシテ玄米粉七〇〇ニ水三五〇乃至四〇〇ヲ加ヘテ

均一ニ混和シ然ル後ヨレヲ「オートクレーブ」又ハ壓力

釜中ニテ壓力四十封度溫度摂氏百四十度位ノ蒸氣ニ

テ十分乃至十五分處理シタル後取出ス、而シテ該被處

理玄米ノ冷却セサル中ニ前記各材料ヲ加ヘテヨク混捏スル時ハ生麺トナル、爾後通常行ハルル製法ノ如ク任意ニ成形シテ焼上レハ所要ノ「パン」ヲ得。

仝様ニ玄米ヲ主要原料トセル「ウドン」及乾「ウドン」ノ配合ノ一例ヲ示セハ。

玄米粉七〇、小麥粉三〇食塩水若干

ニシテ玄米粉七〇ニ水二五〇ヲ加ヘテ均一ニ混和シタル後コレヲ「オートクレーブ」又ハ壓力釜中ニテ壓力六〇封度溫度摂氏百五十度内外ノ蒸氣ニテ五分間處理シタル後取出シ該被処理玄米ニ前記材料ヲ加ヘテ混捏スル時ハ生麺トナルニ依リ該生麺ヲ通常ノ方法ニテ「ウドン」トナス事ヲ得。

而シテ從來小麦粉以外ノ材料ニテ乾「ウドン」ヲ製造スルト時ハ極メテ折損シ易ク困難トサレタルモノナレト本法ニ依リ製シタル「ウドン」ニハ此欠点ナク優良ナル乾「ウドン」ヲ容易ニ製造スルコトヲ得ルモノナリ。

四、特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ヲ以テ本文ニ明記スル如ク澱粉質ニ富メル物質又ハ其ノ加工粉ヲ壓力四十封度溫度攝氏百四十度以上ノ蒸氣ニテ処理シテ粘延性ニ富ミ且適當ナル可塑性ト彈力性トヲ有スル物質トナシ該物質ノ性質ヲ利用シテ之ヲ生麺トナシ又ハ之ヲ他ノ生麺ニ加フル事ヲ特徴トスル生麺ノ製造法。

陸軍大臣　荒木貞夫

官房控

陸普第四二八九號　昭和九年七月十一日

昭和九年特許願第六二一八號

發明ノ名稱　簡易壓濾筒

右出願ニ關シ昭和九年六月十六日附ノ通知ニ從ヒ別紙ノ通意見書提出候也

昭和九年　月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

出願人　陸軍大臣　林銑十郎

特許局審査官　大谷元男殿

意見書提出ノ件

意見書提出ノ件及意見書ニ大臣捺印ノ上特許局ヘ送達相成度

（第五期日ヨリ九日限リ）

一　昭和九年七月拾壹日

官房

昭和九年七月十一日

銃砲課

意見書

意見申立ノ要旨

昭和九年特許願第六二一八號ハ左記ノ理由ニ依リ特許法第一條ニ該當スルモノト御決定相成度

理由

昭和九年六月十六日附廉書ニ依レハ本願ハ本願出願前ニ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物昭和七年實用新案出願公告第一二六五八號（以下單ニ出願公告第一二六八號ト稱ス）公報中ニ明記セラレタル一端ヲ閉塞シ他端ヲ放出口トセル濾枠上ニ濾布ト濾紙トヲ交互ニ捲重シテ成ル濾過器ニヨリ當業者ノ容易ニ想到シ得ヘキ所ナルヲ以テ新規ノ發明ヲ構成セサルモノト査定セラレ